

石田 涼 いしだ りょう



学校法人京都精華大学理事長

赤坂博前理事長の任期満了にともない、2017年12月25日付で石田涼前専務理事が理事長に就任した。任期は2020年12月24日までの3年間。

石田新理事長は1962年兵庫県生まれ。1984年同志社大学文学部文化学科国文学専攻卒業、1986年佛教大学通信教育部課程本科修了。公私立高等学校にて教員（国語科）を務める。

1989年京都精華大学に入職。

事務局各部署を歴任した後、1999年から常務理事、専務理事を務める。理事就任以降は、マンガ学部・デザイン学部の開設をはじめとする学部の再編、同性パートナーを配偶者と同等にあつかうダイバーシティの推進など、建学の理念に沿った個性的な大学づくりに貢献してきた。

京都精華大学は2018年度に創立50周年を迎える。1968年の創立以来、初代学長岡本清一が提示した、世界人権宣言と日本国憲法にもとづく「人間尊重」と「自由自治」の教育理念の下、新しい社会と文化の創造に貢献できる表現者の育成に取り組んできた。世界が抱えるさまざまな課題に対して、芸術と文化によってその解決に貢献することが本学の使命である。

新理事長の下、リベラルアーツ教育と国際教育を重点化した「表現の総合大学」として再構築を図るべく、態勢の整備が進んでいる。

UNIVERSITY CURRENT REVIEW



大学時報

奇数月20日（年6回）刊行

●WEBサイトにて、全文無料公開中

※第348号（2013年1月発行）から

詳細は

<http://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/>



第377号（2017年11月発行）

【特集】

薬学教育のいま



【座談会】

全員留学に期待する効果と注意点

【インタビュー】

和田 由里氏（株式会社花満相談役兼企画広報室長）

第378号（2018年1月発行）

【特集】

生涯学習・社会人の学び直し



【座談会】

周年事業について考える
— 転換と発信の契機に

【インタビュー】

岸 孝之氏（東北楽天ゴールデンイーグルス）

長澤修一 梅花女子大学学長。

井上博 阪南大学学長。京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学。福島大学経済学部助教授、阪南大学流通学部教授を経て、'15から現職。専門は国際経済学。

山田省三 中央大学大学院法務研究科教授。'81中央大学大学院法学研究科博士課程満期退学（法学修士）。'04中央大学法学部教授を経て現職。

周東正紀 学校法人実践女子学園総務部長。企画広報部長および入試広報担当部長を兼務。'91早稲田大学政治経済学部政治学科卒。株式会社リクルートを経て、'131月から現職。

須田誠一 学校法人上智学院人事局長。'88上智大学経済学部卒。人事グループ長、総務局長などを経て、'13から現職。

田平浩二 内閣府男女共同参画局推進課長。

（併）内閣府仕事と生活の調和推進室参事官。'93労働省。厚労省障害者雇用対策課、長崎県産業労働部政策監などを経て、'17から現職。

長野香 立教学院広報室長兼立教大学総長室広報課長。立教大学文学部卒。'13から現職。

高橋陽一 公益財団法人私立大学通信教育協会理事。'93東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。武蔵野美術大学造形学部教授。主著『新しい教育通義』など。

向後千春 早稲田大学人間科学学術院教授。博士（教育学）。著書に『18歳からの「大人の学び」基礎講座』（北大路書房）、『上手な教え方の教科書』（技術評論社）など。

川原洋 サイバー大学学長 兼 IT総合学部学部長。'84マサチューセッツ工科大学工学部機械工学科博士課程修了。S.D. '12から現職。

花見常幸 創価大学副学長補、通信教育部長。

'82創価大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。法学部長を経て、'12から現職。私立大学通信教育協会理事。主著に『憲法』など。

花岡大幹 京都橘大学通信教育課長。

陸亦群 日本大学通信教育部教授。'01日本大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。'11から現職。編著『Rebirth of the Silk Road and a New Era for Eurasia』など。

奥田義孝 フェリス女学院理事長。慶應義塾大学商学部卒。三菱銀行（現三菱東京UFJ銀行）、森永製菓に勤務。'03フェリス女学院理事、'11から現職。元日本聾話学校理事長。

佐野知子 弁護士（名川岡村法律事務所）。東北大法学部卒。東京音楽大学講師。'09、'16国立科学博物館監事。

今井陽子 文教大学越谷校舎事務局 教育支援課長。'17 4 月から現職。教育支援課内に設置する「保健センター」「学生支援室」の事務も統括。

黒田敦子 国際武道大学体育学部武道学科副学科長、准教授。国際武道大学卒業。米国セントラルメソジスト大学留学、卒業。'17 から現職。

西村 智 関西学院大学経済学部教授。フランス・リール大学 Ph.D. (経済学)。'02 関西学院大学経済学部助手に就任、'12 から教授。労働経済学専攻。

森 昭師郎 公益財団法人放送番組センターアーカイブ・活用グループ主幹。

小柴和子 東洋大学生命科学部教授。'95 東北大学大学院理学研究科生物学専攻修了。博士(理学)。専門は動物発生学。'10 東京大学講師、'16 東洋大学准教授、'17 教授。

菅野穂人 津田塾大学総合政策学部部長、教授。'03 パリ第 10 大学大学院哲学科博士課程修了。博士(哲学)。主な著書に「国家とはなにか」「死刑 その哲学的考察」など多数。

松本和俊 文科大学学園経営企画局経営企画課長代理。'87 文科大学人間科学部卒。卒後本学入職。'04 桜美林大学大学院国際学研究科大学アドミニストレーション専攻修了。'17 から現職。

時安邦治 学習院女子大学国際文化交流学部長、教授。

大日方聖信 上智大学総務局広報グループ長。'87 上智大学外国語学部卒。同年学校法人上智学院入職。'03 桜美林大学大学院大学アドミニストレーション専攻修了。'17 から現職。

石井雄隆 早稲田大学総合研究センター助手。修士(教育学)。専修大学附属高等学校英語科講師を経て、'15 から現職。

島添亮子 共立女子大学国際文化学部(現国際学部)卒業。小林紀子バレエ・シアターのプリンシパル・ダンサーとして古典から近代バレエまで幅広く主演するほか、新国立劇場バレエ公演、公益社団法人日本バレエ協会公演「ジゼル」などで主演している。'07 東京新聞制定中川鋭之助賞、'08 橘秋子賞優秀賞、'12 服部智恵子賞などを受賞。

川島 葵 フリーアナウンサー。上智大学文学部卒。'05 東海ラジオ入社。'12 からフリー。東海ラジオ「TOKYO UPSIDE STATION」日テレ「PON!」などに出演。

〈お断り〉 本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き

2018年
1月・2月

● 1月9日(火)
第8回理事会、平成30年新年交歓会に出席

● 1月23日(火)
第9回常務理事会に出席

● 2月6日(火)
全私学連合「私学振興協議会」に出席

● 2月13日(火)
第10回常務理事会、第9回理事会に出席

● 2月14日(水)
日本私立大学団体連合会 役員会に出席

● 日本私立大学団体連合会「記者懇談会」に出席
日本私立大学団体連合会「記者懇談会」に出席

日本私立大学団体連合会では、公財政改革委員会の下に設置した「教育財源確保に関する小委員会」の報告としてとりまとめた「人づくり」を支える高等教育財源のあり方——学生修学支援の新たなスキーム『高等教育機会均等拠出金制』の創設に向けて——の公表に当たり、報道関係者各位との意見交換を目的として、標記懇談会（於・アルカディア市ヶ谷）を開催した。

当日は、報道関係各社の論説委員・編集委員をはじめ、文部科学記者会所属記

者の計16名にご出席いただき、連合会からは役員など関係者7名が参加した。同懇談会では、「高等教育の機会均等に向けた学生修学支援の新たなスキーム」をテーマに、意見交換を行った。

● 2月21日(水)
林芳正文部科学大臣に、高等教育の機会均等に関する要望書などを手交

開催報告

● 1月9日(火)
「新年交歓会」開催

本連盟にご支援・ご協力をいただいている方々をお招きして新年交歓会が開催され、鎌田薫会長の年頭あいさつ、安西祐一郎顧問の乾杯の後、350名のご出席者が新年の歡びを交わした。

● 1月16日(火)
「第2回学長会議」開催

「学修成果とその測定方法のあり方について」をテーマに開催。58校の加盟大学から74名の参加があった。

● 1月22日(月)
「国の補助金等に関する説明会（第2回）」開催

「平成30年度私立大学関係（私学助成）政府予算案等」、「国公立私立大学を通じた大学教育再生の戦略的推進等に関する政府予算案」および「科学研究費助成事業（科研費）」をはじめとする研究費に関する政府予算案」について、文部科学省担当者から報告、説明があった。また、内閣官房担当者から「地方創生に関わる国の制度・予算の動向」についての説明もあり、最新の情報を共有した。当日は、98校の加盟大学から316名の参加があった。



「第2回学長会議」

大学時報 年間総目次 第374号(2017・5) ◆ 第379号(2018・3)

第374号(2017・5)



クロースアップ
インタビュー
佐々木茂喜さん

巻頭言 「女性の一生」を支える女子大学

巻頭論文 教育改革と体育系大学の課題

湊 晶子

座談会 大学における第二外国語教育の意義とこ

高見令英

れからの展開

中尾 浩／境 一三／寺家村博／吉本 一／(司

会)三浦英俊

特集 女性の学び直しにおける大学の役割

再就職のためのリカレント教育

坂本清恵

社会人女性の活躍支援プログラムを開設し昭和女

子大学ダイバーシティ推進機構の取り組み

武藤空男

女性の生涯にわたるキャリア構築を支援する――

東京女子大学エンパワーメント・センター

栗田啓子

女性のためのスマートキャリアプログラム――明

治大学リバティアカデミーでの誕生から今日に

至るまで――

オーダーメイドの女性医師再研修――復職支援プ

ロジェクト

再就職支援に必要な女性の人権の視点

横田仁子

再就職支援に必要な女性の人権の視点

竹信三恵子

小さいう 絵が好きなお子どもを育てる教育の実現

を

天坊昭彦

小特集 オープンキャンパスは、いま

5年間の約束――パーソナルオープンキャンパス

を目指して

「主体性」をもたせるオープンキャンパス 諸岡大輔

高校生が求めるオープンキャンパスとは 中島伸次

参加目的の多様化に対して、われわれは……

石巻地域の人材育成・活性化への新たな取り組み

日本学生支援機構の寄附金事業について

独立行政法人 日本学生支援機構 政策企画部 広報

課

私の授業実践――教育現場の最前線から

教師と学生の「協働の学び」の可能性――「知」へ

のアクセスを再構築する大学の「授業」――

明日への試み

東京情報大学看護学部

時代が求めるたくましい看護師の養成 加納佳代子

わが大学史の一場面――日本の近代化と大学の歴史

医療総合大学として歩んだ10年――チーム医療の

中核を担う医療人の育成を目指して――兵庫

医療大学

加盟校の幸福度ランキングアップ(プレゼン・コ

ンテスト編)

高校生を対象とした建築設計競技・日本大学

教育改革の切り口――専大ベンチャービジネスコ

ンテスト・専修大学

30年続く「現代学生百人一首」――東洋大学主催

の累計応募数134万首の短歌コンテスト・東

洋大学

柿原康貴

池本正純

佐藤慎也

クローズアップ・インタビュー

オタフクホールディングス株式会社 代表取締役社長

長 佐々木茂喜さんに聞く（聞き手） 脇浜紀子

新会員代表者紹介

近藤研至（文教大学学園）／嘩道佳明（上智学院）

／鳥巢義文（南山学園）／入澤 崇（龍谷大学）

新学長紹介

菊野一雄（山梨英和大学）

新加盟大学・会員代表者紹介

大東文化大学／門脇廣文（大東文化大学）

表紙・大学点描 広島女学院大学

だいがくのたから 福岡女学院大学

第375号（2017・7）



クローズアップ
インタビュー
平田 徹さん

巻頭言

教育力の伝統校として

近藤研至

巻頭論文

宗教系大学の憂鬱と未来

木越 康

座談会

キャンパスの都心回帰の意義と今後の展開

松岡 敬／井原 徹／竹村牧男（司会） 山田健太

特集 大学業務の委託や教育プログラムにおける連携協力

グローバル人材の育成と「産学協同」の仕組み

近畿大学国際学部の取り組み 藤田直也

マイナンバー制度への対応について 安達精一郎

奨学金事業のアウトソーシング——東洋大学の目

本学生支援機構奨学金業務 米山真子

事業会社の設置と運用 西原邦彦

業務の外部委託化がもたらすものとは 菅野隆行

すいそう 新米理事長のお国自慢 小西靖洋

小特集 大学と保護者・卒業生との関わり——保護者会・同窓会活動の現状と課題

後援会を通じた保護者との連携 矢口洋生

大学と父母・保護者間の懸け橋として 出雲高志

保護者との接点を深める三つの手段 足立 寛

卒業生、大学同窓会との連携について 嶋田 剛

大学スポーツ改革の意義と今後の展望 安西祐一郎

私の授業実践——教育現場の最前線から

専門科目の講義のバランス 原 正則

明日への試み

久留米大学人間健康学部

地域に躍動感を与える人間健康学部 濱崎裕子

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

大学改革の原点をさぐる——経営危機からの再建

——京都橘大学 北林利治

加盟校の幸福度ランキングアップ《研究所編》

快速に実践できるスロージョギングの効用を解明・

福岡大学 田中宏暁

人類学研究所と人類学博物館——南山大学の人類

学研究の取り組み・南山大学 後藤 明

ホスピタリティインダストリー研究所——ホスピ

タリテイ業界を担う若手人材育成を目指して・

大阪学院大学 テイラー雅子

クローズアップ・インタビュー

横浜高等学校 教諭、硬式野球部監督 平田 徹さ

んに聞く（聞き手） 外川智恵

新会員代表者紹介

丸山康人（暁学園）／小野礼子（海星女子学院）／

長谷山彰（慶應義塾）／長谷部八朗（駒澤大学）

／川原俊明（追手門学院）／堺 憲一（東京経済

大学）／愛知太郎（東洋学園）

新学長紹介

神田典城（学習院女子大学）／城島栄一郎（実践女

子大学）／小林甲一（名古屋学院大学）／矢口洋

生（仙台白百合女子大学）

表紙・大学点描 文教大学

だいがくのたから 関西学院大学

第376号(2017・9)



巻頭言 社会に貢献する研究力

井上寿一

巻頭論文 不変と進化

高野克己

座談会 就職採用活動の日程と大学教育の現状を

考える

五十嵐星汝／山戸富美子／小林宣子／宇都宮徹／

(司会) 音 好宏

特集 学生の学修時間確保の現状と課題

学生はシラバスを見ているのか／学生に必要な学

修時間を考える

長谷川岳史

100分授業が目指すもの／明治大学の新授業時

間割と新学年暦の可能性

千田亮吉

アクティブ・ラーニングと学修成果の可視化

井上雅裕

反転授業の可能性——アクティブ・ラーニングの

視点から

森 朋子

ブレンディッドラーニングによる学修時間の増大

森田裕介

すいそう 異文化体験の諸相

津田 葵

小特集 私立大学研究ブランディング事業

総合大学における研究ブランディング事業の意義

と今後

松並久典

「立教らしく」未知の課題に挑む

インクルーシ

ブ・アカデミクス——生きものところの「健

やかさと多様性」に関する包摂的研究

加藤 睦

震災復興後を見据えた研究の取り組み 今野久男

東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業

近代人文学の出発点としての中世神学

鐸木道剛

「高大接続」の全貌を求めて——大正大学「高大接

続システム改革フォーラム」を開催

山内 洋／高橋慈海

私の授業実践——教育現場の最前線から

角道亮介

「分かりやすさ」よりも「正しさ」を

角道亮介

明日への試み

角道亮介

京都産業大学現代社会学部

角道亮介

次世代のリーダー育成を目指して

藤野敦子

わが大学史の一面——日本の近代化と大学の歴史

藤野敦子

創立100周年に向けて——試練を乗り越えさら

藤野敦子

なる発展を目指して・久留米大学 永田見生

加盟校の幸福度ランキングアップ(研究所編)

人工知能高等研究所の来歴・中京大学 奥水大和

原点に返り、検証し、いまに生かす——下田歌子

研究所が目指すもの・実践女子大学 湯浅茂雄

大学で行う親子関係支援——次世代育成研究拠点

形成を目指して・甲南大学 北川 恵

クロースアップ・インタビュー

箏曲演奏家 野村倫子さんに聞く

(聞き手) 川島 葵

表紙・大学点描 学習院大学

だいがくのたから 甲南大学



第377号 (2017・11)

クローズアップ
インタビュー
和田由里さん

巻頭言

世界に存在感を示せる大学を目指して

巻頭論文

大学時代を充実させる三つのステップ

座談会

全員留学に期待する効果と注意点

竹内 理／磯貝 健／池田伸子／高野恵美子／
(司会) 奥村信幸

特集 薬学教育のいま

薬学教育の課題と薬学教育協議会の役割

望月正隆

チーム医療の中核を担う薬系人材の育成を目指して
田中稔之Beyond Borders——立命館大学薬学部 服部尚樹
薬学看専門職連携教育——医療現場から学ぶ
政田幹夫

高度な研究環境で展開される薬学教育

近年の薬学部志願動向

鍛冶利幸／宮崎 智

すいそう 「効率」と「非効率」の間で 市瀬英昭

小特集 外国人留学生への就職支援

人一人は大切なり

柳井 望

一人一人と向き合う就職支援を目指して

森 伸也

アジア太平洋の未来を創る人材の育成に向けて

——APUらしい異文化理解力、コミュニケーション力と寛容さを育む教育

金 賛會

企業調査から読み解く外国人留学生の採用状況と

今後の展望

福田謙一

私立大学フォーラム2017——「いまどきの学

生の懷事情——学生生活のいま——」総括(東

京会場)

原田善教

私の授業実践——教育現場の最前線から

語学／教養講義科目担当教員としての取り組み

山尾 涼

明日への試み

東邦大学健康科学部看護学科

生活者の視点を重視し健康を科学する——看護学

教育の新たな試み

浅野美知恵

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

チャレンジ&エレガンス——梅花女子大学、この

10年・梅花女子大学

長澤修一

加盟校の幸福度ランキングアップ《企業との連携・

協定編》

放射線治療人材教育センター——医療健康科学部

が目指す陳腐化しない教育・駒澤大学

保科正夫

筑邦銀行と三井住友銀行との教育・研究事業に関

する包括的な連携協定・久留米大学

大矢野栄次

産学連携によるセキュリティ人材の育成・東京情

報大学

布広永示

クローズアップ・インタビュー

株式会社花満 相談役 兼 企画広報室長 和田由

里さんに聞く

(聞き手) 脇浜紀子

新会員代表者紹介

伊丹敬之(国際大学)

新学長紹介

中川正法(筑紫女学園大学)

表紙・大学点描 東海大学

だいがくのたから フェリス女学院大学

第378号(2018・1)



年頭所感 「私立大学の独立性と多様性を保証する」ために
鎌田 薫

巻頭言 「学生がつくる大学」を目指して

巻頭論文 人口減少（少子化）社会と大学の将来
門脇廣文

座談会 周年事業について考える——転換と発信の契機に
清水 潔

川井伸一／戸部順一／安藤由紀美／（司会）兼高聖雄

特集 生涯学習・社会人の学び直し

若者の自立を支える夜間部教育——東洋大学の場
矢口悦子

シニア学生学費軽減制度
渡辺 保

地域職能資格「地域公共政策士」——京都発、地

域でのマルチパートナーシップを担う人材育成制度——
内藤多恵

診療所を中核とした地域医療経営人材育成プログラム
山本昭二

技術経営を学ぶキャリアアップMOT—働きながらMOT（技術経営）を学ぶキャリアに生かす—
古俣升雄

多文化・多言語環境を生かした企業人材育成プログラム——Global Competency Enhancement Program (GCEP)
横山研治

すいそ「智慧と慈悲の実践」を目指して
岡本宣丈

小特集 大学の緑地管理

深沢キャンパスの四季
中島 隆

SEGESを活用した緑地管理
山本功一

教育農場とガーデンは教育実践の舞台——命を育み、人を育てる園芸教育——
澤登早苗

大学キャンパスの緑地計画とマスタープラン——立命館大学の三つのキャンパスを事例として——
武田史朗

私立大学フォーラム2017——「働き方改革」の意義を考える——総括（大阪会場）
高作正博

私の授業実践——教育現場の最前線から
和田ちはる

明日への試み

広島修道大学健康科学部
増田尚史

地域の人々の健康を支援する

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

「自由自治」の大学の誕生と軌跡・京都精華大学

加盟校の幸福度ランキングアップ《企業との連携・協定編》

石田 涼

ミズノ株式会社との連携協力協定・中京大学

小栗優貴

地元信用金庫との地域に根ざす大学作り——関東学院大学と湘南信用金庫の事例から——

立山徳子

株式会社モンベルとの連携協定——天理大学の授業から始まる、社会貢献事業の連携・天理大学

岡田龍樹

クロアシアップ・インタビュー

東北楽天ゴールデンイーグルス 岸 孝之さんに聞く

（聞き手）外川智恵

新会員代表者紹介

上原 明（学校法人城西大学）／齊藤悦一（園田大学）

表紙・大学点描 大東文化大学

名古屋学院大学

名古屋学院大学

名古屋学院大学

第379号(2018・3)

クローズアップ
インタビュー
島添亮子さん

巻頭言 チャレンジ&エレガンス

長澤修一

巻頭論文 大学におけるキャリア教育

井上 博

座談会 ワーク・ライフ・バランスの実現に向け

て

山田省三／周東正紀／須田誠一／田平浩二／(司

会) 長野 香

特集 ICTを活用した通信教育課程

メディア授業のためのガイドライン

高橋陽一

生涯学習時代におけるオンライン大学のこれから

向後千春

オンライン大学によるリカレント教育

川原 洋

「学生のための大学」の通信教育課程として

花見常幸

社会人学生への学習支援のあり方

花岡大幹

学生の多様性をサポートする大学通信教育

すいそう

建学の精神と私学経営

陸 亦群

小特集 アカデミック・ハラスメントの現状と課題

題

その行為はアカ・ハラに当たるのか——判例から

導く正確な理解と対処の基本

佐野知子

ハラスメントのないキャンパスを目指して——文教

大学におけるハラスメント防止の取り組み——

今井陽子

「ハラスメント防止ガイドライン」の活用

黒田敦子

意識改革を目指すセンターだより

西村 智

公開セミナー「大学における映像アーカイブ活用と

新たな展開——大学と放送ライブラリーによる取

り組みの報告——

森昭昭郎

私立大学フォーラム2017——「私立大学の新

たな役割と可能性——産学官連携を中心に——」

総括(名古屋会場)

鹿島久幸

私の授業実践——教育現場の最前線から

新しい発見のある授業を目指して

小柴和子

明日への試み

津田塾大学総合政策学部

女子大として初の政策系学部の試み——津田塾大

学はなぜ総合政策学部を設置したのか

萱野稔人

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

建学の精神(原点)に立ち返る——文教大学学園創

立90周年を機に振り返る重要性——文教大学学園

松本和俊

加盟校の幸福度ランキングアップ《オープンエデュ

ケーション編》

大学授業のネット配信の課題と意義・学習院女子

大学

時安邦治

海外展開も見据えたJMOOC講座——上智大学

の取り組み事例・上智大学

大日方聖信

世界に向けた教育内容の公開・早稲田大学

石井雄隆

クローズアップ・インタビュー

小林紀子バレー・シアター プリンシパル 島添

亮子さんに聞く (聞き手) 川島 葵

新会員代表者紹介

石田 涼(京都精華大学)

表紙・大学描 梅花女子大学

だいがくのたから 京都産業大学

座談会 「私立大学における女性のキャリア形成」

特集 「大学図書館最新事情」

小特集 「海外留学体験の効果測定への取り組み

——海外短期派遣プログラムを中心に」

表紙・大学点描 園田学園女子大学 だいがくのたから 清泉女子大学

クロースアップ・インタビュー：

「北 義則さん（株式会社トーカ堂代表取締役社長）」

編集後記

◆大学通信教育が正規の大学課程として認可されて60年以上が経過した。その間、ICT（情報通信技術）の進展に伴い、より簡便かつ迅速な受講方法に発展してきた現状がある。「いつでも、どこでも」学習できる環境として整備され、社会人の学び直しの場としても活用されている。

一方、本人認証の徹底や、教育の質保証が担保できているのかといった問題も挙げられている。簡便がゆえに、想定外の不正への対応が追いついていないのかもしれない。今回の特集に寄稿いただいた内容からは、これからも大いに展開していく可能性は十分にあると感じた。

ICTの活用により、これまでの通信教育課程ではできなかった、学生と教員がオンラインでコミュニケーションを図って学習継続を支援することや、学習者が孤独に陥らないように学習者同士の結び付きを促進することも考えられている。

これからもICTの進展は続くであろうし、通信教育課

程の活用の方も併せて発展していくことであろう。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・園田学園女子大学教学支援部教務課課長 西崎 公哉）

◆「ハラスメント」という言葉を耳にするようになったのは、1980年代後半だ。その中でも最も一般化したものは「セクハラ」であろうか。以降、「パワハラ」「モラハラ」などさまざまなハラスメントが40以上も認められている。「ハラスメント」の話をすると、「昔はおおらかでよかった」「昔はそんな問題は起こっていなかった。いまは何でもクレームだ」と言う人が必ずいる。しかし、「昔からあったんですよ！ 昔の人は我慢・泣き寝入りしていただけなんですよ！」

今回の小特集は、「アカハラ」に焦点を絞ってご執筆いただいた。教員と学生、教員間など、研究教育の場において、気付かないうちにハラスメントは発生している。最近では相談件数が増えているようだが、それはアカハラという概念に対する認識が広がったため、被害者が声を上げるようになったのだらう。

ハラスメントは、「人権侵害」という明確かつ重大な問題（犯罪）であるという認識が必要であろう。

小特集が「アカハラ」の理解の一助となれば幸いである。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・関西学院大学高大接続センター課長 筒井 弘幸）

◆クロースアップ・インタビューでは、小林バレエ・シアターのプリンシパルの島添亮子さんにお話を伺った。

インタビュ会場にお入りになったときの身のこなしや、インタビュ中の指先を含めた手の仕草が美しく、思わず見入ってしまった。

大学時代に就職活動をしながらか、バレエを続けるか悩んでいたときに、ゼミの中村先生からの一言が背中を押した。そして、中村先生からは「いまでも作品に関わる参考資料などをお借りしたり、実際にバレエの上演を観に来ていただいたりと関係は続いている。人との出会いがときに人生を大きく変えることがある。今後の出会いの一つ一つを大切にしていきたい。（日本私立大学連盟事務局 佐藤 義文）

